



木の郷ぎふの家 御嵩建築  
の住まい創り新聞

Vol.2

今回のテーマ  
いろんな「やさしさ」



「やさしい」が詰まった木の家づくり

今年度から国交省によって創設された「木のいえ整備促進事業」をご存じですか？

これは「木の家」つまり再生可能な循環資源であり、二酸化炭素を蓄えてくれる木材を大量に使用する住宅などの建築物を整備することによって、地球にやさしく寄り添う低炭素社会の実現を目的のひとつとした政策。要件を満たした木造の長期優良住宅（中小住宅生産者による）に対して、国から補助が出ます。認定を受けた国内地域の木材を構造の過半に使用すれば、さらなる補助も。当初の秋から延長して、来年1月末まで申請が受け付けられることになりました。

この木の家づくりには、いろんな「やさしさ」が詰まっています。まずは先述のとおり「地球にやさしい」。そして活用されていなかった国産材が使われることによって森が活性化するので「森林にやさしい」。質の高い住宅が建設されるようになると市場が活気づき「社会にやさしい」。木の家は家族の暮らしだけにとどまらず、もっと広いレベルで豊かさをもたらしてくれるというわけです。ちなみにこの事業には大規模木造建築物を対象とした「木のまち整備促進事業」もあります。

木の家や建物がたくさんある木のまち、想像しただけで清々しい地球の空気が漂ってきませんか。



お家の照明も地球にやさしく LEDで灯りをエコに

LEDのココがエライ!!

1. 長寿命（寿命は40000時間以上。ちなみに白熱電球は1000時間程度。）
2. 省エネルギー（白熱電球に比べ発光効率が約7.8倍。）
3. 振動・衝撃に強い（半導体発光なのでとても堅牢。）
4. 省資源（長寿命でゴミ削減にもつながります。）
5. 熱くなりすぎない（壁に引っ掛けるなどの照明デザインも可能。）
6. 点灯までが速い（スイッチを入れた瞬間フル発光。）



7月、田が水を満々とたたえる雨季、女性たちは田植えで忙しくなる。ミャンマー カチン州バモーにて。写真撮影：岩佐 義久

雨を楽しむ人、ですか？

風を楽しむ人、ですか。  
空を楽しむ人、ですか。  
森を楽しむ人、ですか。

自然と対峙するのではなく、  
自然と共生することを選ぶ  
アジアの人々。

日本人もまた、古くから自然と共に  
快適に暮らすことの大切さを知っていました。  
たとえば、美しい木組の家。  
たとえば、内と外をなだらかにつなぐ土間。  
たとえば、漆喰壁のあるたたずまい。  
素材の良さを生かし、  
季節の機微を知り、  
時と共に変化する風や光を上手に引き入れる暮らし。  
これまで歴史のなかで営々と積み上げてきた知恵と技が  
これらの家づくりのすみずみに結集しています。



雨楽な家は、自然と仲良くすることをコンセプトに日本各地の  
自然素材を暮らしのなかに取り入れることを提唱します。  
それだけで、現代人の感性を刺激する上質でオシャレな空間。  
自然を愛し、自然と共に生きることをライフスタイルにする人と  
家族のための住まいのブランド、雨楽な家。